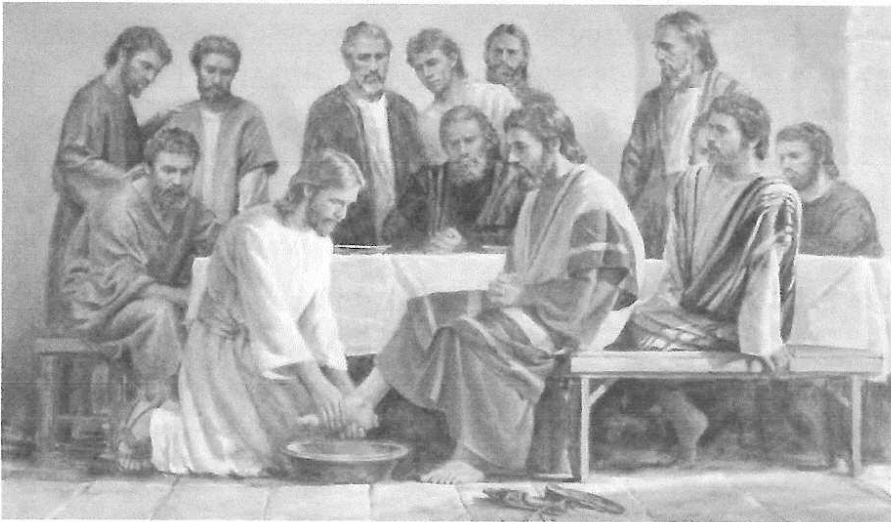


## <皆に仕える者>

マルコ10：32～45



聖書の価値観と世の価値観・考え方は真逆

- ・与えなさい。そうすれば与えられる。
- ・持っている人はさらに与えられて豊かになる。持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。

あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。あなたがたの間でひとの先に立ちたいと思う者は、みなのもべになりなさい。マルコ10：43, 44

サーバント・リーダーシップ Servant leadership …人に仕えるリーダー

\*最後の晩餐の前に、弟子達の足を洗ったイエスさま

一行は、エルサレムに上る途中。イエスさまは3回目の十字架の受難を予告

1回目 8章31節 シンプルな予告

2回目 9章30節 裏切りがあることが加えられた。

3回目 10章33, 34節 死刑判決を受ける 異邦人(ローマ人)に引き渡され、彼らは、侮辱し、唾をかけ、鞭で打って苦しめた挙句に、神に呪われた罪人として殺される。

\* 受難予告の後に、弟子がどう生きるかというメッセージが、必ず付いている。

ゼベダイの子のヤコブとヨハネのあつかましい頼み事  
このタイミングに?!

「あなたの栄光の座で、ひとり先生の右に、ひとりを左にすわらせてください。」

自分たちを特別に偉く取り立ててほしい！  
彼らの関心ごとは、自分のこと、自分の名誉。

イエスさま・・・「神の国」と「この世の論理」は違う！  
あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。あなたがたの間でひとの先に立ちたいと思う者は、みなのもべになりなさい。【44 節】

イエスさまが言わんとしたことは、それ以上のこと。  
下から仕える究極の姿＝主イエス・キリストの十字架へ至る歩み

イエスさまは、この時初めて、なぜご自分が十字架で死ななければならないのか  
その意味を弟子達に告げた。

人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人たちのため、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。【45 節】

#### 贖いの代価・・・保釈金

借金をしてお金が返せない場合、肩代わりに人を奴隷として差し出して借金の穴埋めをする。奴隷状態に置かれた人を再び救い出すためには、借金と利息を保釈金として支払う必要があった。

イエスさまの十字架の犠牲は、奴隷状態(罪の下に売られた)となった者を救い出す保釈金。贖いの代価として、自分のいのちを与えられた。

キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまで従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。 ピリピ 2 : 6～9

多くの人たち・・・この中に私たちが含まれている。イエス・キリストが十字架上で「贖いの死」保釈金を払ってくださった。これこそ、イエスさまが「仕える者」になってくださったことの現れ。